

「であい、ふれあい、そして未来へ」 ~自分を発揮し 求め続ける白川っ子の育成~

全国学力・学習状況調査の結果より

4月17日(木)に6年生を対象として行われた「令和7年度全国学力・学習状況調査」の結果が、7月末に文部科学省から公表されました。本調査は「子どもたちの学力・学習状況を把握して、今後の授業や生活習慣の改善に役立てること」を目的として行われています。なお、本調査によって測ることができるのは、あくまでも「学力」の特定の一部、学校の教育活動の一側面のみであることは、ご承知おきください。

今回の調査結果から見えてきた成果や課題を、学校・家庭・地域で共有しながら、今後の教育活動に活かしていきたいと考えています。

以下、本校の結果とその分析および今後の取組について紹介します。



教科に関する調査の結果より

教科の平均正答率

	国語	算数	理科
本校	71	69	69
三重県	66	57	56
全国	66.8	58.0	57.1

本年度は、国語・算数・理科の3教科で調査が行われました。

本校の各教科の平均正答率は、すべての教科で三重県および全国の平均を上回りました。よく頑張りましたね！

しかし、各教科でそれぞれの領域や設問ごとに見ていくと、一部で県や全国の平均を下回っている箇所もありました。各教科の結果を、もう少し詳しく見てみましょう。

各教科の領域別の平均正答率

国語	言語の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
本校	72.2	66.7	88.9	66.7	59.3	80.6
三重県	78.4	62.6	79.7	65.5	68.7	56.0
全国	76.9	63.1	81.2	66.3	69.5	57.5

上の表は、国語の出題内容を系統的に分類して領域別に分け、それぞれの平均正答率を示したものです。

トータルでは県平均を上回っているものの、領域別に見ると子どもたちの強みと課題が見えてきます。「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」の4つの領域では、県や全国の結果を上回りました。特に「読むこと」に関しては県・全国を大きく上回っており、文章の内容の大筋を捉え要旨を把握したり、目的に応じて文章や図表などを結び付けて必要な情報を見つけたりすることができています。

一方で、「言語の特徴や使い方に関する事項」と「書くこと」の2領域では県や全国の結果を下回り、課題が見られました。具体的には、「言語の特徴や使い方に関する事項」の知識・技能を問う設問で、漢字の書き取りに関する問題（2四「あつい日」を「暑い」に書き直す）の間違ひが多かったです。習った当時は書いていたはずの漢字を忘れてしまっているのは、復習不足です。何もしなければ、人は誰しも覚えたことを少しずつ忘れていってしまいます。忘れないためには、定期的に復習をして、忘れていたところを覚えなおす必要があります。それを何度も繰り返すことで記憶が定着し、自らの知識・技能として身につけていくのです。家庭での復習の時間を十分にとって欲しいと願います。また、「書くこと」の領域における思考・判断力や表現力を問う設問では、「2一[山田さんの書いた“手ぬぐいのよさ”についてすいせんするちらし]」の文章の構成の工夫を説明したものと適切なものを選択する」問題において、“手ぬぐいのよさ”が「もよう」と「使い方」の2つのまとまりに分けて書かれているにもかかわらず、時間の流れや使い方の手順に沿って書かれていると答えた人が多かったです。この設問では、「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうか」をみています。この設問の正答率が低い（県や全国の約半分程度）ということは、自分の考えが伝わるように文章を書くためにはどのように文章の構成を工夫すればよいのか、実際に自分の考えをアウトプットして書き出す体験が不足しているのではないかと考えられます。

これらのことから、国語における本校の子どもたちの課題として、「漢字の書き取りの定着不足」「自分の考えが相手に伝わるように文章の構成を工夫してまとめる力の不足」といった、「書く力」の不足があげられます。

算数	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
本校	76.4	63.9	72.2	81.5	75.6
三重県	61.6	54.7	53.0	54.7	62.1
全国	62.3	56.2	54.8	57.5	62.6

次に、算数の領域別平均正答率を見てみましょう。

算数では、すべての領域においても、県と全国の平均を上回りました。学力の定着が伺えます。

しかし、設問別に見ていくと、全16問中3問で県・全国の平均を下回っていました。1つは「2(2)方眼上の5つの図形の中から、台形を3つ選ぶ」問題です。台形が「向かい合った1組の辺が平行な四角形」であることを覚えていれば正解できるはずなのですが、9人中3人しか正解できていませんでした。四角形と台形・平行四辺形・ひし形・長方形・正方形について、整理し直す必要がありそうですね。また、「1(2)都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断して、そのわけを書く」問題では、9人中2人しか正解できていませんでした。2013年と2023年の「都道府県別のブロッコリーの出荷量の割合(%)」のグラフと、「都道府県別のブロッコリーの出荷量(万トン)」のグラフの2つがあり、単純に出荷量が増えたか減ったかを判断したいので、都道府県Aの出荷量(万トン)を2013年と2023年で比べればよいのですが、多くの人が出荷量の割合(%)のグラフから答えて間違っていました。「問われた内容に対して、どの資料から何を読み取れば良いのかを判断する力」に課題が見られます。さらに、次の問題(次ページ)では、全員が不正解でした。

「3(2) $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、共通する単位分数と、 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く」問題ですが、この問題では「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうか」をみています。子どもたちの解答を見ると、「分母の違う分数のたし算なので、通分をしなければいけない」ということには気づいていて、分母を「12」にして足したらよいということはわかっているようです。しかし、分母を「12」にするこ

3 ひろとさんたちは、小数や分数のたし算についてふり返っています。

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。



$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 2 個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 1 個分です。
 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、 $2 + 1$ を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。
 もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

とが、「もとにする数(単位分数)」を $\frac{1}{12}$ にすることであるということには結びついていないようです。

「 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ を計算しなさい」という問題であれば、おそらく正解できるのですが、今回のように計算の仕方の意味を問われると、子どもたちの理解が不十分であることが見えてきます。この問題では、「 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ 」を解くので、 $\frac{3}{4}$ の分母を 12 にするために分母と分子に 3 をかけて $\frac{9}{12}$ に、 $\frac{2}{3}$ の分母を 12 にするために分母と分子に 4 をかけて $\frac{8}{12}$ にします。したがって、「もとの数(単位分数)」は $\frac{1}{12}$ で、 $\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{12}$ の 9 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{12}$ の 8 個分ということになります。

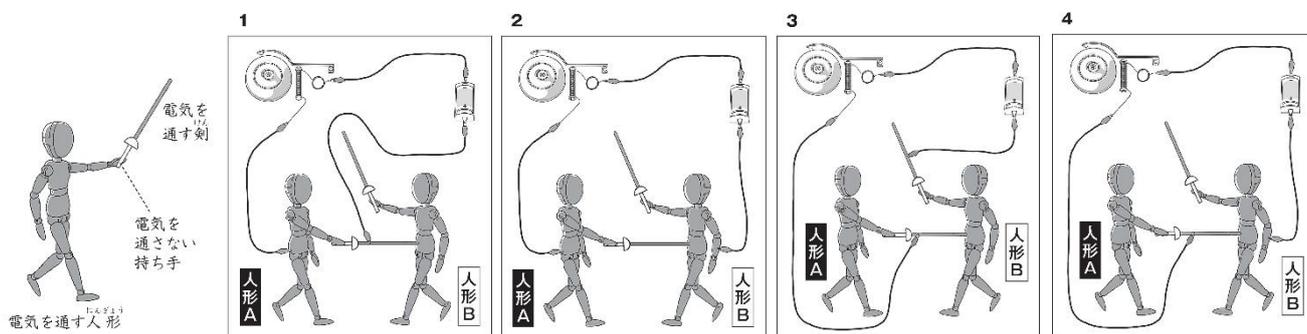
これらのことから、算数における本校の子どもたちの課題として、「用語や解き方についての理解を深めること」「適用問題や発展問題をたくさん解いて、問題を読み取る・既習内容を活用する・解答を文章にまとめるといった経験の不足」があげられます。

最後に、理科の領域別平均正答率を見てみます。

理科	エネルギー	粒子	生命	地球
本校	50.0	55.6	66.7	85.2
三重県	45.8	50.1	49.8	65.7
全国	46.7	51.4	52.0	66.7

理科でも、すべての領域において、県と全国の平均を上回りました。子どもたちはよく頑張っています。しかし、設問ごとに見ていくと、全 17 問中 2 問で県・全国の平均を下回っていました。どちらも「エネルギー」の領域です。1 つは「2(1)アルミニウム・鉄・銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれ性質にあてはまるものを選ぶ」問題です。正答率が 0% でした。「身の回りの金属についての知識が身についているかどうか」をみる問題ですが、子どもたちの多くが「いずれかの金属について、電気を通さない」と誤って考えています。「電気を通す」ことが、金属共通の性質であるという理解が不十分でした。もう 1 つは「2(2)電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形 A の剣を人形 B に当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ」問題でした。「人形の剣の持ち手が電気を通さない」ことが問題の始めの部分に書いてあるので、回路に電流が途切れずに流れるかどうか図をよく見て回路をたどっていけば、正解を選ぶことができ

る(下図)はずなのですが、子どもたちの多くが途中で電気の流れない部分(剣の持ち手)がある回路を選んでしまっていました。これらのことから、「適用問題や発展問題をたくさん解いて、問題を読み取る・既習内容を活用する経験」を積み重ねることで、復習も兼ねながらさらに学力が定着していくと考えられます。



児童質問紙調査の結果より

児童質問紙調査は、子どもたちの生活や学習の様子などをアンケート形式で問う調査です。「生活習慣等に関すること」「豊かな心の育成に関すること」「学習環境や授業等の教育活動に関すること」への設問があります。以下に本校の結果の一部を示して特徴をまとめてみました。
 ※ 数値は、各質問に「当てはまる・している」「どちらかといえば、当てはまる・している」と回答した割合の合計(%)です。

【基本的な生活習慣等に関すること】

質問項目	本校	三重県	全国
朝食を毎日食べていますか	77.8	92.9	93.7
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	88.9	80.9	81.9
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	88.9	91.0	91.0

基本的な生活習慣に関する質問項目への本校の子どもたちの肯定的回答の割合が、昨年度より少し下がりました。規則正しい生活ができるように心がけるとともに、ご家庭でも子どもたちの生活習慣の見届けをよろしく願います。

【自己有用感、達成感、挑戦心、社会への関心等に関すること】

質問項目	本校	三重県	全国
自分には、よいところがあると思いますか	66.7	85.1	86.9
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	100	92.5	92.2
将来の夢や目標を持っていますか	66.7	82.4	83.1
人が困っているときは、進んで助けていますか	66.7	94.0	93.7
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	100	97.6	97.2
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	33.3	77.3	78.1
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	88.9	96.4	96.4
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	44.4	82.0	81.3

「先生は、自分のよいところを認めてくれている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と本校の子どもたち全員が考えています。一方で、自己肯定感や将来の夢や目標を持てている子ども、人が困っているときに進んで手を差し伸べることができる子どもの割合が、昨年度よりも下がりました。人の役に立つ人間になりたいと思って

いても、自分に自信が持てず行動に移せない傾向が見受けられます。もっと自分に自信をもって、いろいろなことにチャレンジしてほしいと願います。また、「自分と違う意見について考えることを楽しいと思う」子どもの割合が、昨年度に引き続いて県・全国を大きく下回っています。自分と違う考え方を受け入れたり、自他の考え方を比べることで新たな気づきを得たり、自らの成長につなげていくことは、これからの人生にとって必要不可欠なことです。相手を理解しようと努力する姿勢が大切です。また、地域・社会をよくするために何かしてみたいと考えている子どもの割合も、県・全国に比べて下回っています。この「白川のまち」の将来の担い手として、地域のために行動しようとする気持ちをぜひ育ててほしいと願います。

【学習習慣、学習環境等に関すること】

質問項目	本校	三重県	全国
学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか *1時間以上の回答	55.6	50.3	54.0
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか *1時間以上の回答	22.2	15.9	21.5
学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれぐらいの時間、読書をしますか *30分以上の回答	11.1	28.4	31.1
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	77.8	79.2	79.4
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	88.9	92.1	91.9

家庭学習の時間の低下は、三重県全体の課題になっています。今年の県全体での「平日・休日に、学校の授業以外に1時間以上勉強をする児童生徒の割合」は、過去最低を更新しています。本校の子どもについても、昨年度より数値(%)が低下しています。定期的に復習をして、学習内容を覚えなおしたり理解不足なところを学習しなおしたりすることが必要ですし、いろいろな問題に挑戦したり、自分の興味関心のある分野をさらに追及したりすることも有意義なことです。やらないことが当たり前になっていませんか？ やらなくても何とかかなると思いませんか？ 勉強は将来の自分への投資です。親や先生に言われるからやるのではなく、自分自身のためにやるのだと思い直して欲しいものです。ご家庭でも、ぜひ声かけ・応援をよろしくお願いします。また、平日に30分以上読書する子どもの割合が、県や全国に比べてもとても低くなっています。「読書離れ」が話題となる昨今ですが、白川の子どもたちの読書離れはさらに進んでいるようです。せめて学生時代には、本に親しむ習慣を身につけたいものですね。もっと、学校図書館や市立図書館を活用していきましょう。

今後の取組について(まとめ)

各教科の調査結果から見えてきた本校の子どもたちの課題から、「自分の考えが相手に伝わるように工夫してまとめる力を伸ばすこと」「練習問題をたくさん解いて、問題を読み取る・既習内容を活用する・解答を文章にまとめるといった経験を積むこと」「反復学習による基礎・基本の定着」に取り組む必要があります。学校では、朝の短時間学習や授業の一部などを利用してA Iドリル（キュビナ）に取り組んだり、自分の考えを相手に伝わるように工夫してアウトプットする活動を増やしたりして課題改善に取り組めます。ご家庭でも、キュビナ等を活用した家庭学習(自主学習を含む)や読書の習慣づけに、ご協力をよろしくお願いいたします。

